

3 次の(1)から(4)までの各問いに答えなさい。

(1) 一次方程式 $6x - 3 = 9$ を次のように解きました。

$$6x - 3 = 9 \quad \cdots \cdots \text{①}$$

$$6x = 9 + 3 \quad \cdots \cdots \text{②}$$

$$6x = 12$$

$$x = 2$$

上の①の式から②の式へ変形してよい理由として正しいものを、
下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア ①の式の両辺に3をたしても等式は成り立つから、
②の式へ変形してよい。

イ ①の式の両辺から3をひいても等式は成り立つから、
②の式へ変形してよい。

ウ ①の式の両辺に3をかけても等式は成り立つから、
②の式へ変形してよい。

エ ①の式の両辺を3でわっても等式は成り立つから、
②の式へ変形してよい。

(2) 比例式 $x : 20 = 3 : 4$ が成り立つとき, x の値を求めなさい。

(3) 連立方程式 $\begin{cases} 5x - 2y = 10 \\ 3x - 2y = 2 \end{cases}$ を解きなさい。

(4) 次の問題について考えます。

問題

1 個 200 円のプリンと 1 個 120 円のドーナツを買います。
プリンとドーナツを合わせて 12 個買ったとき、代金の合計
は 2160 円になりました。

買ったプリンの個数とドーナツの個数をそれぞれ求めな
さい。

買ったプリンとドーナツの個数を求めるために、プリンの個数を
 x 個、ドーナツの個数を y 個として連立方程式をつくります。

$$\begin{cases} x + y = 12 & \cdots \cdots \textcircled{1} \\ \boxed{} & \cdots \cdots \textcircled{2} \end{cases}$$

①の式は、「買ったプリンとドーナツの個数の合計」に着目して
つくりました。②の式も、問題の中のある数量に着目してつくるこ
とができます。着目する数量を、下のアからエまでの中から 1 つ選
び、 $\boxed{}$ に当てはまる式をつくりなさい。

ア 買ったプリンとドーナツの個数の合計

イ 買ったプリンとドーナツの個数の差

ウ 買ったプリンとドーナツの代金の合計

エ 買ったプリンとドーナツの代金の差